

慢性痛に対する教育効果の評価尺度

知識尺度

以下の慢性痛の診療やケアに関する記述の正誤について、ご存知の範囲でご回答下さい。最も当てはまるもの1つに○をつけてください。

	正しい	間違い	分からない
慢性痛は、組織損傷が治癒していないことを意味している	1	2	3
痛みの要因には、侵害受容性、神経障害性、そして心理社会的な要因がある	1	2	3
ICD-11における慢性痛の分類においては、慢性一次性疼痛と慢性二次性疼痛に大別される	1	2	3
慢性痛による社会的コストとして、労働生産性の損失がある	1	2	3
慢性痛の治療目標は、QOLの向上である	1	2	3
患者本人が主体性を持ち、医療者と共にゴールを設定することが重要である	1	2	3
痛みが難治化する場合、破局的思考が関与していることが多く、評価する必要がある	1	2	3
二次性頭痛は、生命に危険な疾患であるくも膜下出血や脳梗塞、髄膜炎などの疾患が原因である	1	2	3
複合性局所疼痛症候群では、原因となる傷害と不釣り合いな強い持続痛、アロディニア、痛覚過敏を呈する	1	2	3
慢性痛の問診には構造化問診の利用が勧められる	1	2	3
慢性痛を起こす器質的病変は必ずあるので、みつかるまで徹底的に検査をする	1	2	3
慢性痛の診断では、red flagを見逃さないことが重要である	1	2	3
NSAIDsの長期投与による副作用としては、腎機能障害があり、特に高齢者では注意が必要である	1	2	3
線維筋痛症に対するオピオイドの使用は推奨されない	1	2	3
アセトアミノフェンより、NSAIDsのほうが長期投与に好ましい	1	2	3
激しい慢性痛では、オピオイド鎮痛薬は第一選択である	1	2	3
慢性痛の突発痛に対しては強オピオイドをレスキューとして使用すべきである	1	2	3
多角的鎮痛法(MMA)とは、末梢レベルで作用する鎮痛法(薬)、脊髄レベルで作用する鎮痛法(薬)、皮質レベルで作用する鎮痛法(薬)を組み合わせることを意味する	1	2	3
家族など重要他者が、患者を過保護にしたり、叱責したりする対応は、患者の痛み行動を強くする原因となる	1	2	3
腰痛および変形性膝関節症患者の患者については痛みと機能悪化を招くため、運動をやめるべきである	1	2	3
認知行動療法は、精神疾患を合併している慢性痛患者に対してのみ有効である	1	2	3
慢性痛の患者でも神経ブロックは除痛効果が高く、合併症なく長期間継続可能である	1	2	3
頸椎カラーは医原的な障害、不活動、自己効力感の欠落などの悪影響のほうが有益性よりも多く推奨されない	1	2	3

困難感尺度

慢性痛の診療やケアに関して、ご自身にあてはまるものをお答えください。

	全くそう 思わない	そう 思わない	あまり そう 思わない	やや そう 思う	そう 思う	とても そう 思う
慢性痛の評価や治療について必要なトレーニングを受けていない	1	2	3	4	5	6
慢性痛の評価に関する知識が不足している	1	2	3	4	5	6
慢性痛を緩和する方法の知識が不足している	1	2	3	4	5	6
利用できる福祉・社会資源に関する知識が不足している	1	2	3	4	5	6
慢性痛に関して、相談(照会)できる専門家が地域にいない	1	2	3	4	5	6
慢性痛の治療やケアに関し、専門家への紹介のレベルやタイミングが分からない	1	2	3	4	5	6
どの診療科に相談すれば良いのか分からない	1	2	3	4	5	6
多職種間で、慢性痛に対する評価方法が一致していない	1	2	3	4	5	6
多職種間で、慢性痛の治療で一貫した目標を設定することが難しい	1	2	3	4	5	6
多職種間で、慢性痛の治療に関するコミュニケーションをとることが難しい	1	2	3	4	5	6
多職種間で、慢性痛患者の心理・社会的要因に関してディスカッションするのが難しい	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者から不安を表出されたとき対応が難しい	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者の家族から不安を表出されたとき対応が難しい	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者に治療目標を設定するときの話しあいが難しい	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者に改善するまでの目安を聞かれた時の対応が難しい	1	2	3	4	5	6
明らかな疾病利得がある慢性痛患者の対応が難しい	1	2	3	4	5	6

地域連携尺度

慢性痛の診療やケアに関する地域連携・多職種連携に関し、ご自身にあてはまるものをお答えください。

	全くそう 思わない	そう 思わない	あまり そう 思わない	やや そう 思う	そう 思う	とても そう 思う
慢性痛患者に関わる、自分以外の職種の動き方が実感をもって分かる	1	2	3	4	5	6
各施設が提供する慢性痛の治療内容が分かる	1	2	3	4	5	6
地域で慢性痛患者に関わっている人の名前と顔、考え方が分かる	1	2	3	4	5	6
地域で慢性痛患者に関わっている施設の理念や事情が分かる	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者に関わることについて、気軽に相談できる人が地域にいる	1	2	3	4	5	6
慢性痛患者に関わることで困ったことは、誰に聞けばいいのかだいたい分かる	1	2	3	4	5	6
慢性痛に関する地域連携に関わる課題や困っていることを共有し、話し合う機会がある	1	2	3	4	5	6
多機関・多職種との慢性痛の研修会や学びの機会がある	1	2	3	4	5	6